

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590900025		
法人名	医療法人 武雄会		
事業所名	グループホームもみの木	ユニット名	東棟
所在地	宮崎県えびの市大字原田2199番地1		
自己評価作成日	平成24年2月27日	評価結果市町村受理日	平成24年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590900025&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に溶け込んだ施設を目指したい。ご近所付き合いができるような、隣の住人というような感覚で親しみを持ってもらえるように、挨拶や言葉がけに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の評価の結果を生かして、前向きに取り組み、目標達成に向けての努力がなされている。感染症と食中毒対策には特に力を入れており、西棟で2人がインフルエンザと診断されたが、大事に至らずまん延を防止することができている。職員の利用者への接し方は、一人ひとりに応じたもので、優しさや辛抱強さが示されている。利用者が部屋にいる時は、定期的に訪ねて様子を見ています。食事全介助者には、相手の食べるペースに合わせ、顔の位置が変わると職員は自らの座る位置を変え、無理強いすることなく声掛けをしてから、口元に持っていくという繰り返しをしながら、時間をかけてでも食事が取れるように、利用者本位の介護がなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で、利用者様お一人おひとりの思いを尊重し、地域の一員としてその人らしく生活していただけるよう支援していきます。」と理念をあげている。日頃、地域に開放を目指している。	地域密着型サービスの理念が新たに加えられ、その意義を理解し、実行することが始められている。研修を通して、新たな理念の理解を共有しようとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会の行事の時、地域の慰問団体に依頼し、踊りや歌などを披露していただいている。	区長と懇意で、回覧板にホームの行事案内を入れてもらっている。老人会には、ホームにお茶飲みに立ち寄るように声をかけている。隣接する畑の所有者とは気軽に声を掛け合う関係ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践経験の浅い施設だが、介護の相談や施設見学はいつでも受け付けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行った報告や話し合いで得た参考意見等の実践に努めている。	家族ならではの要望が出されるなど、実際的な会議となっている。職員には連絡ノートに記して伝えている。正月に餅を食べさせてほしいとの家族の願いに、製法も工夫し、細心の注意を払いながら要望に応えた例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員に市福祉課と地域包括支援センターの職員が参加されているので、相談等させてもらっている。日頃から連絡を取り合うように努める。	介護福祉課の職員との関係は密で、相談に丁寧に応じてもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加や勉強会を行い、拘束行為についての理解を深めて、身体拘束をしないケアを実践していく。	開錠は当然との理解の下、施錠はなされていない。見守りで、出ようとする利用者とは一緒に外出して、気持ちに沿った支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加や勉強会を行い、虐待行為について理解し、虐待をしないケアを実践していく。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用できるよう、今後、研修等に参加していく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の無いよう、十分な説明を行い、署名・押印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様から不満等が伝えやすいように、声かけに工夫するようにしている。また、ご家族の来園時は、気軽に話して頂ける雰囲気作りを目指している。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている職員研修で、職員の意見、要望を聞いている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭状況等を勘案しながら、勤務のシフト調整をしている。今後、職員個々の努力や実績等も把握していきたい。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に施設内の勉強会を実施しているが、施設外の研修会にも積極的に参加していきたい。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加等を通じて、交流の場を得て質の向上に努めたい。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に、ご本人・ご家族と面談し、希望や不安なことを聞いて受け止めるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族が困っていること、不安や希望をしっかりと聞くようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それぞれのご本人・ご家族により、必要とされている事は異なるので、よく話し合い、提供できる支援を見極めるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴を心がけ、グループワークで楽しみ、誕生日会や年間行事等も一緒に楽しく過ごしている。また、昼食も同じテーブルで頂くようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所していただいた際には、ご本人と楽しいひと時を過ごして頂けるよう配慮している。日頃の生活状況をお伝えすると共に、ご家族のお話もじっくり伺うように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔のテレビ映像・写真・話題等で、その頃の思い出話などを聞いている。また、地域の情報を収集し、伝えるようにしている。	親戚の行事や墓参りに、家族が伴い、出かけている。利用者の会いたい人がいるという要望に、職員はその人を探す出すことに努め、連絡が取れた事例がある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を大切にされる支援を心がけている。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居による退居や死亡退居されたご家族とも、連絡を取ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望に耳を傾け、ケアプランとして生かせるよう努める。		テレビを見ている利用者の会話や表情を見逃さず、共に話に加わることにより、利用者の思いを知る機会を得ている。空腹感を訴える利用者への関心と観察を怠らず、主治医に相談して改善策を講じたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に、ご本人・ご家族からできるだけ詳しく聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握するように努め、記録に残すようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	困難なケースに関しては、ご家族や看護師、ユニット管理者が集まり、話し合いをしている。		定期的および随時の計画が作成され、利用者に応じた介護がなされている。職員の意見が取り入れられたものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録はしているが、内容に乏しいところがある。気づきや工夫、状態の把握を職員全員ができるように努力していく。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院・薬の受け取り・入院退院の付き添いなど職員が支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区役員、民生委員、地区消防団の指導を受けて、消防訓練などを実施している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院等で、希望者は職員が付き添いをしている。皮膚科は往診診療をして頂いている。	それぞれの掛かりつけ医の診察や往診がなされている。職員同伴の通院の際は、職員がノートの左半分には情報を記入し、主治医に渡し、主治医は右半分には所見等を記入している。家族が伴う通院は、主治医への情報提供書を持参してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤職員として准看護師を1名、パート職員として准看護師を1名配置している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャー・准看護師が中心となり、病院との連携・情報交換をするようにしているが、十分とはいえない。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化されつつある方との話し合いはさせてもらった事がある。重度化対応・終末期ケア対応指針や確認書など、法人単位で検討している。	方針を決め、文書作成を行うために、同法人の母体との話し合いを設けたが、法人全体で統一されたものにするということになり、方針も文書化もなされていない。	方針を定め、文書化を行い、家族や利用書との考えを共有できるようになることを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を重ね、早い時期に全ての職員が身につけるように努める。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を1回実施したが、消防署の協力を得ながら訓練を続けて行っていく。	消防団員も参加して、火災の際の避難訓練がなされている。	夜間を想定しての訓練と地震に備えての訓練が行われることを期待したい。また、地域の方々の参加を促すことも望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、対応には十分配慮していくよう、職員研修時には注意を促している。また、必要に応じて、その都度話している。		利用者の性格、反応の仕方を把握して、上手に対応している。職歴を考慮しての言葉の選択などにおいても、思慮分別を働かせている。利用者が居室でくつろいでテレビを見ている時には、入室しないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の声かけや傾聴により、本人の思いや気持ちを知るように努力している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の思いを尊重し、その人らしい生活をして頂くように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりや整容をご本人と共に行ったり、ご希望の理・美容院に行かれるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや配膳、片付け等、負担にならない程度に職員と一緒にして頂いている。		配食サービスによる食事であるが、栄養士が定期的にホームに来て、好きなものの調査や食べ残しの状態を把握して、メニューに取り入れている。職員も共に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの取れた食事を提供し、摂取量や水分摂取量を記録表にて把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・義歯磨きを毎食後、見守りや介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能や慢性疾患により、オムツの必要な方もいるが、オムツの見直しを心がけ、自立支援に添った介護に努めている。		トイレ誘導による排せつ支援が主になされている。それが通常できない利用者には便意があるときは、トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、健康チェック表・排泄チェック表にて把握し、便秘予防や対応を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を定めて入浴日を決めているが、ゆったりとした気分で入浴できるようにしている。		週2回で、職員は湯あたりがないように気をつけながらも、ゆっくりと時間を取った入浴となるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりのペースに合わせ、ご自分の居室で休息をお願いしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認をしながら、服薬管理をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リビングの掃除、洗濯たたみ、食事の準備など、お一人おひとりの力に合わせた役割で、楽しみながら作業をして頂いている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は現在には行っていないが、状況に応じて、近隣の散歩を職員と一緒にしている。家族同伴の外出はされている。		天気の良い日は、皆で散歩することもある。利用者が自発的に外に出ようとするときは、職員が同伴して散歩している。通院の際、職員は花が見られるルートを選んだり、利用者の住んでいた地域を通るなど、気をきかせている。	

自己	外部	項目	自己評価	東棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の要望にて、自己管理されている方もおられる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話(ケータイ)や手紙の取り扱いは自由にされている。ご希望があれば、施設の電話で取り次いでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、季節感を感じて頂けるように、季節に合った装飾物を心がけている。		テーブルには鮮やかな桃のつぼみが付いた枝が飾られている。数か所に加湿器が設置されている。浴室やトイレも不快なおいはない。天井から音が聞こえることに不快を表す利用者もおり、食事時は廊下のみ音楽が流されている。日にちと曜日は大きく書いて貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあったご利用者同士の交流を支援している。居室での休養も大切にしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた物など、慣れ親しんだ品や好みの物で、心穏やかに過ごせるように配慮している。		家で使っていたいすや家具、仏壇が置かれている居室がある。家族が手作りの家具を持ってきている部屋もある。好きな歌手のポスターを壁に貼っている利用者もいるなど、利用者と家族の意向を取り入れた個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け、段差解消、ベッドの高さ調整等で自立を促している。			